政策研究センター　リサーチ・プロジェクト　成果報告書

提出日: 2019/3/1

申請者(リーダー): 氏名　田村　暁彦　職名　政策研究院教授兼参与

リサーチ・プロジェクト名:

(和文) 「開発政策文書」であるSDGSの「グローバル経済政策文書」としての再整理と民間企業のSDGSへの参加慫慂の契機の発見

(英文) Translating the SDGS as a “development policy document” into a “global economic policy document” - for searching a clue to encouraging participation of corporates therein

期間(yyyy/mm/dd): 2019/4/1 から 2020/3/31 1年間

共同研究者:	氏名	職名	所属機関・部局名	(備考)
共同研究者1	守山宏道	課長	経済産業省　サービス政策課	
共同研究者2	内田隆	調整官	経済産業省　サービス政策企画	
共同研究者3	柏原恭子	課長	経済産業省　国際経済課	
共同研究者4	松本加代	室長	経済産業省　企業会計室	
共同研究者5	※上記4名については移動のため、全員、共同研究者を辞退。田村先生のみで計画を実施。			

リサーチ・プロジェクトの目的

SDGS(持続的な開発目標)は、元来はMDGS(ミレニアム開発目標)の後継として、2015年に国連総会で採択された開発目標ではあるが、先進国の課題も盛り込まれる等、従来の開発政策としての文書の域を超えた内容になっている。一方、SDGSはマルチステークホルダーによるパートナーシップを謳っているが、本来SDGS達成のために貢献が期待される民間企業は、その依って立つ行動原理がSDGSのような開発政策とは異なる。本研究では、SDGSを「開発政策の文書」から、より広範な意味を持つ「グローバル経済政策文書」として再整理することを目指す。

研究成果の概要(800字程度):

プロジェクト申請・採択時に想定していた主たるプロジェクト協力者(経済産業省サービス政策課守山課長、内田企画官)が2018年夏に人事異動となり、当初の想定内容によるプロジェクト遂行が不可能となった。その後、同プロジェクトを変更し、申請書類の「(3)何を明らかにするか」に記載されている『上記の規範あるいは指標の開発は、ソフトロー創造という営みであり、現在国際政治学において先端的テーマとして注目を集めている「指標とグローバルガナバンス」という問題を、実際に指標創造という作業を通じて探究する』という論点に重点を置く方向で修正した。具体的には、SDGSに代表される、地球規模社会問題の解決のための国際規範として、ソフトローが多用されている実態とその国際法上・国際政治上の意義を扱った学術研究成果を整理する、というところに絞った研究にした。当初は3名程度の学識経験者を招聘してワークショップを開催する予定であったが都合が合わないため、申請者が個別にヒアリングを行う方向で調整中である(一部要出張)。

研究成果:

別紙((成果報告書(研究成果一覧))に記入

その他、研究成果として特記すべき事項:

上記テーマに関する論文を最低1本執筆する予定である。

(全ての項目含め、1頁以内で記述してください。)

成果報告書(研究成果一覧)

研究成果一覧:
(発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。別紙一覧でも可。)
(必要に応じて適宜追加)

論文((学術雑誌(総合雑誌(文藝春秋、中央公論、世界)を含む。)等掲載)
※査読付きのものは、査読欄に「1」を入れてください。
※共著論文の場合には、ご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。
※国際共著とは、異なる国を拠点とする複数の研究者による共著論文を意味します。

	著者	0 件 標題	雑誌名 /所収図書の編者・図書名・出版者等	巻・号 /章・節	件 発行年	開始ページ	終了ページ	0 査読(有=1)	0 国際共著(yes=1)	DOI	オープンアクセス(yes=1)	0
1							-					
2							-					
3							-					
4							-					
5							-					

図書:
※共著の場合にはご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。
※書籍の一部分のみを執筆した場合には論文の区分に含めてください。

	著者・編者	0 件 図書名	出版社	発行年月	総ページ数
1					
2					
3					
4					
5					

口頭報告・学会発表等:
※査読付きの学会論文集は「論文の区分」で報告し、査読なしの学会論文集は「学会発表の区分」で報告してください。
※招待講演については、学会等名の後に(招待講演)と明記してください。

	報告者等	0 件 論題	学会・研究会名等	報告年月日	開催場所
1					
2					
3					
4					
5					